

単元名 5 論理を捉えて ―漢字に親しもう4

配当時間 1時間

単元の目標 (1) 文や文章の中で漢字を読んだり書いたりすることができる。
 (3) 学習課題に沿って、積極的に漢字を読んだり書いたりしようとする。

標準的な展開例

11210211_001

学 習 活 動	留 意 事 項 な ど
1 新出漢字を確認し、練習問題に取り組む。 ○ 本時の学習課題を確認する。 ★新出漢字を確認しよう。 ○ 新出漢字を確認する。 ○ 練習問題に取り組む。	・言葉の意味が分からないときは、国語辞典等で調べせるとよい。 ・p. 251「〔練習〕小学校六年生で学習した漢字」に併せて取り組み、これまでに学習した漢字の書き取りをさせてもよい。 【評】練習問題に取り組む活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。

【 備 考 】

社会生活で求められる表現は、多くの場合、自らの立場と、そのような立場に立つ根拠を明確にした表現である。この単元では、根拠の働きに注目して、論理的な表現のあり方について学ぶことを目的とする。

また、論理的な表現では、一方的に自分の意見を述べるのではなく、他者の立場も尊重することで、多様な考え方に触れることができる。また立場の違う考え方からの反論を予想することで、論理に深みが増し、説得力も高まる。根拠の確かさとともに、そうした視点からも、論理の展開のしかたを確認させたい。

また、「根拠の適切さを考えて書こう」では、文章構成を学ぶ。自分の立場を最初に述べ、意見や根拠を述べていくことも、話合いや意見文を書くには必要なことである。